

<開催のご案内>

「ソニー子ども科学教育プログラム」科学が好きな子どもを育てる教育実践  
全国208校の小・中学校より選ばれた最優秀校

**研究成果を発表する「子ども科学教育研究全国大会」開催**  
**11月18日(金) 刈谷市立雁が音中学校(愛知県)**  
— 研究発表、公開授業、記念講演他 —

記念講演：内田 麻理香 氏 (サイエンスライター)

後援：文部科学省、愛知県教育委員会、愛知県小中学校長会 他

公益財団法人 ソニー教育財団(会長 盛田昌夫)は、2015年度「ソニー子ども科学教育プログラム」の教育助成論文で「最優秀校」に選ばれた刈谷市立雁が音中学校(校長:加藤 祐介/愛知県)にて、優れた教育実践を公開・発信する「子ども科学教育研究全国大会」を開催します。

「ソニー子ども科学教育プログラム」の論文募集は、1959年にソニー創業者の井深大が始めた教育助成活動です。昨年度に、最優秀校に選ばれた雁が音中学校では、生徒一人一人の探究による学びを実現するため、教員による教材開発や実験観察の方法に加え、生徒が話し合いを深めたり考えを説明したりする場面づくりを実践に取り入れています。本大会では、元文部科学事務次官 御手洗 康 氏を含む審査委員より高く評価された実践の様子を、公開授業などを通じて全国の教育関係者のみなさまに広くご紹介します。



当日会場では、『世界一受けたい授業!』などテレビでも活躍されているサイエンスライター 内田 麻理香 氏による記念講演、同プログラムに入選した他県の理科教員によるポスターセッション、愛知県の「夢と学びの科学館」や「刈谷市少年少女発明クラブ」による展示などを予定しています。



今月10月21日に福島県で開催した小学校での全国大会には、全国の教育関係者、学生、地域や学校関係者を含め約350名が訪れました。素晴らしい取り組みと、次世代を担う子どもたちの学びの姿をぜひご覧ください。

※雁が音中学校の最優秀論文全文はホームページでお読みいただけます  
[http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2015\\_sci\\_karigane.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2015_sci_karigane.pdf)

※雁が音中学校からのご案内(PDF)はこちらのページからご覧ください  
[http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/taikai/pdf/2016/2016\\_karigane\\_2nd.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/taikai/pdf/2016/2016_karigane_2nd.pdf)

**子ども科学教育研究全国大会(研究発表) 開催概要**

**刈谷市立雁が音中学校** (愛知県刈谷市築地町三丁目9番地1)

開催日時：平成28年11月18日(金) 9:00~16:20  
研究主題：科学が好きな生徒を育てる 体験から感動へ! 2016雁中サイエンスアクションⅢ  
内容：研究発表、各学年での授業公開、ポスターセッションなど  
記念講演：「身のまわりの不思議から科学が好きな子を育てる」内田 麻理香 氏(サイエンスライター)  
主催：雁が音中学校、公益財団法人 ソニー教育財団、ソニー科学教育研究会  
後援：文部科学省、愛知県教育委員会、刈谷市教育委員会、愛知県小中学校長会 他

## 「ソニー子ども科学教育プログラム」教育助成論文 最優秀校

刈谷市立雁が音中学校（愛知県）

テーマ：科学が好きな生徒を育てる 体験から感動へ！ 2015雁中サイエンスアクションⅡ  
論文全文 ([http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2015\\_sci\\_karigane.pdf](http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/result/pdf/2015_sci_karigane.pdf))

### 【審査講評】

生徒一人一人の意欲的な探究による学びの実現に取り組まれました。「ワンダースペース」(生徒を教卓の周りに集めて話し合いをする)や「MD法」(班の代表者が他の班を回りながら自分たちの班で練り上げた考えを説明する)などが、授業実践の探究過程に効果的に位置づけられ、教師も生徒も共通認識をもって取り組まれています。どの単元においても、生徒の探究意欲をかき立てる教材開発や実験観察の方法、教具の工夫が行われ、感動を与える学びや体験活動の基盤となっています。「体験的な授業」と「サイエンスアクション」との二つの柱は「科学が好きな子ども」に迫るものであり、提言性のある実践です。

### ■「ソニー子ども科学教育プログラム」教育助成論文 とは

「科学が好きな子どもを育てる」を主題に、理科や生活科を中心とした教育の「実践」と「計画」を募集しています。毎年、約200校の全国の小学校・中学校から、学校での取り組みを論文にまとめてご応募いただきます。元文部科学事務次官の御手洗 康 氏を審査委員長に、各界の専門家が実践、考察・評価、次年度計画について審査します。予備審査・中間審査を経て、最優秀校など上位の入選候補校に関しては現地調査も行います。最優秀校は翌年、計画の実践とともに、全国の教育現場でその成果を共有できるよう、「子ども科学教育研究全国大会」を開催。主題に迫る取り組みの積極的な発信にご協力いただきます。詳しくは、ホームページをご覧ください：<http://www.sony-ef.or.jp/sef/program/>

### ■ソニー教育財団について

ソニーの創業者である井深 大は、戦後間もない日本において、科学技術の振興こそが国の発展に繋がると考え、次世代を担う子どもたちへの理科教育に多大な関心を抱いていました。日本初のトランジスタラジオを発売し、会社経営が軌道に乗り始めたのを機に、1959年「ソニー小学校理科教育振興資金」の贈呈を始めました。ソニーの教育助成活動の始まりです。井深 大の理念を引き継いだ教育助成活動は対象を中学校にも広げ、この事業を継続的に発展させるため、1972年に「財団法人 ソニー教育振興財団」を設立しました。その後、子どもたちの感性・創造性・主体性の育成を目指した「ソニー子ども科学教育プログラム」へと発展。50年以上もの間、創造的で先進的な取り組みを行う全国の学校、先生方を支援してきました。一方で、井深 大の関心は幼児教育にも広がり、1969年に「財団法人 幼児開発協会」を設立しました。幼児期の豊かな感性と創造性の育成を目指し、2002年から幼稚園・保育所・認定こども園を対象にした「ソニー幼児教育支援プログラム」を開始しました。2011年に「公益財団法人 ソニー教育財団」となり、幼児期から中学生までの「科学する心」を育むこと、「科学が好きな子ども」を育てることを柱にした教育助成を行っています。教育助成の他、「自然に学ぶ」をテーマに探究する小・中学生対象の「科学の泉ー子ども夢教室」、親子の絆を育む『科学する心』を見つけようフォトコンテストなど、未来を生きる子どもたちへのさまざまな支援活動を行っています。



ソニー創業者 井深大

### ＜報道関係の問い合わせ先＞

公益財団法人 ソニー教育財団 東京都品川区北品川4-2-1

TEL:03-3442-1005 FAX:03-3442-1035 (担当 山下)

公式ホームページ：<http://www.sony-ef.or.jp/>

公式フェイスブック：<https://www.facebook.com/SonyEducationFoundation>